

質問を通して、昨シーズンのインフルエンザ罹患状況は、国立感染症研究所の資料によると約729万人となっており、入院患者数は、全国約500か所の基幹定点医療機関からの報告では、約1万3000人ということでしたが、報道などによっては約1000万人とも言われており、実数は多いものと考えられます。ちなみに9月末時点での新型コロナウイルス累計感染者数は8万2494人ですから、その多さが推測できると思います。

◆令和元年度 高齢者インフルエンザ予防接種状況

	対象者数	実施者数	接種率
川越市	9万3789人	4万584人	43.3%
川口市	13万8311人	6万367人	43.6%
越谷市	8万5452人	3万6726人	43.0%
所沢市	9万2388人	4万221人	43.5%

また、川越市及び県内他市の65歳以上の高齢者インフルエンザ予防接種状況は大きな差はないものの、4割程度の方しか接種をしていないということでした。

- Q：新型コロナウイルス感染拡大以降、病院へ行くのをためらう方、受診回数を減らす方が多くなっていると言われていたが、特定健診や後期高齢者医療健診の際に、インフルエンザ予防接種は可能なのか？
- A：特に予防接種の実施の可否についての規定はありません。医師の判断のもとに、実施の可否が判定されます。
- Q：今年度の高齢者インフルエンザ予防接種の実施期間などはどうなっているのか？
- A：対象者は、川越市に住民登録がある方で、接種日時時点で65歳以上の方などです。定期予防接種の実施期間は10月20日から翌年1月31日までです。自己負担金は、ワクチン単価相当額として1500円の負担です。一方で、生活保護受給者等の方は、自己負担金はいただいておりません。

厚生労働省は8月28日に、重症化リスクの高い人に対して優先的な接種を呼びかけ、65歳以上の高齢者で接種を希望する人は例年どおり10月1日からの接種開始に向けて呼びかけると発表しています。そこで、

- Q：川越市の高齢者インフルエンザ予防接種の開始時期を10月20日からとした理由は？
- A：例年、埼玉県の実施期間は10月20日から翌年1月31日までとなっております。毎年度の実施期間については、埼玉県医師会により相互乗り入れの実施期間が示され、本市でも相互乗り入れと同様の実施期間としております。
- Q：インフルエンザ以外の予防接種として既に実施されている、ヒブやBCG、四種混合などのA類疾病に対するワクチン接種状況と高齢者肺炎球菌ワクチン接種状況は？
- A：A類疾病についてですが、4月は昨年度に比較して約79%の接種と減少したものの、その後は、例年以上の接種があり、合計では昨年と同等の接種状況となっております。高齢者肺炎球菌ワクチンについては、昨年度と比較して、5月は83%、6月は73%と接種の減少がありましたが、7月は例年以上の接種があり、合計の接種数は、昨年と同等の接種状況となっております。

【ここがポイント】

議場での答弁に対して、厚生労働省が10月1日からの接種開始と発表していることから、今後国や県から前倒しでの実施依頼の通知があれば迅速に、可能な限りの対応をお願いし、予防接種機会の逸失がないように申し上げておきました。

その後、高齢者インフルエンザ予防接種実施期間を10月1日からの開始とする旨の通知があり、10月1日発行の広報川越掲載の修正も間に合わせていただきました。

さらに9月25日埼玉県議会において、65歳以上のインフルエンザワクチン助成の補正予算が可決され、インフルエンザ予防接種自己負担が無償となりました。

その後市議会においても9月29日に対象者の8割の方の接種を予算化しました。

【65歳以上インフルエンザ予防接種】

	例年	今年度
実施期間	10月20日～	10月1日～
自己負担額	1500円	無償

ここで提言！積極的な早期接種の呼びかけを！

- インフルエンザ以外のワクチン接種状況は、4月緊急事態宣言発令以降、病院受診による新型コロナウイルス感染を危惧しての受診控えにより、一度は前年の7割から8割に減少したものの、現在は例年と同等以上に戻ってきております。
- これは緊急事態宣言も解除され、今日では新型コロナウイルス感染者数もピーク時に比べて若干減少傾向にあるがゆえに、例年どおりに戻っているものと考えられますが、再度第3波の感染拡大となり、受診控えが起こることが危惧されます。
- インフルエンザ流行期を迎えていく中で、受診控えによるインフルエンザ予防接種者数の減少は、コロナ禍の中でインフルエンザを発症するようなことがあれば、インフルエンザなのか、新型コロナウイルスなのか、の判断はつきづらく、それゆえに受診を拒否する医療機関も危惧され、結果として、救える命を救えないことにつながります。
- Q：市民の命を守るためにも、インフルと新型コロナの同時流行による医療崩壊を防ぐためにも、インフルエンザ予防接種の勧奨を積極的にすべきと考えるが、市の考えは？
- A：今年度は、特に新型コロナウイルス感染症の同時流行も懸念されるため、できるだけ早い時期の接種が望まれるところです。接種の機会を逸することのないよう、また医療機関の現場の混乱を来さないよう、市ホームページの新着情報やトピックスへの掲載など、方法を工夫し周知してまいります。

トップページで大きく掲載、回覧も作成してもらいました。